

NEC田んぼ作りプロジェクト（上太田）レポート VOL. 33

田んぼに堆肥を入れ、新達人田んぼの開墾作業をしました！

4 / 7 : 達人コース 堆肥入れ・枝打ち・新達人田んぼ除根

2013年 5月20日

発達した低気圧が日本列島を横断し、全国各地で暴風や大雨となり、土砂災害や床上・床下浸水が発生、未明まで大荒れが続いたため上太田での達人コースも延期を検討する状況でしたが、日の出と共に晴天になり実施することが出来ました。しかし、昼にかけて強風が続き、気温もだんだん下がるという作業しにくい状況でした。前日の東田中の作業にも参加した、達人さん2名（午後から1名参加の計3名）で活動しました。

トキのえさ量調査

前回の水漏れ補修作業によって、CとDの田んぼにも水がたまるようになりました。1m四方の木枠を各田んぼの任意の場所に置いて、生き物の数を記録しました。アカムシ（ユスリカの幼虫）や、イトミミズが多く観察されました。



トキのえさ量調査（2013年4月7日 晴 気温21℃） 目標値は1㎡あたり4g

田んぼの状況		湛 水 中				1 個体あたり の平均重量
田んぼの場所		Aたんぼ	Bたんぼ	Cたんぼ	Dたんぼ	
見 つ か つ た 生 き 物	ユスリカの幼虫	50匹	43匹	32匹	35匹	0.008g
	ガガンボの幼虫		3匹	2匹	2匹	0.180g
	ゲンゴロウの幼虫			2匹	1匹	0.051g
	ミズムシ	1匹		3匹		0.018g
	イトミミズ	60匹	5匹	30匹	20匹	0.040g
	コガムシ	3匹				0.160g
	アメリカザリガニ 小	1匹				0.330g
	マルタニシ	1匹				4.505g
	モノアラガイ	3匹		1匹		0.060g
各田んぼの合計生物量		8.313g	1.084g	1.981g	1.491g	
今回の調査の平均値		3.217g/㎡				

マルタニシ（3月27日に放流）の、1個体あたりの重量が重いいため、A田んぼの生物量の合計が、とても多くなっています。

最終目標であるトキがこの谷津田で生息していくために必要な年間摂食量は75kgとされているため、上太田の谷津田全体(23,000㎡)が再生されたときに必要な生物量は、1㎡あたり3.2gです。

今回、目標値である4gを超えてはいませんが、トキ1羽が暮らせるぐらいの生物量となりました。これから、田植えに向けて観察できる生物の種類も数も増えてくると考えられます。毎回の達人コースでしっかりと調査して行きましょう。

◆◆◆◆◆

植樹した苗木にかかる枝を、枝打ちしました。

◆◆◆◆◆

上太田の田んぼ東側の畦に、15本の苗木を植樹しましたが、杉の枝が広く垂れ下がっている部分があり、苗木や田んぼに影を落としています。日当たりと風通りを良くし、お米や谷津田を利用する生き物にとって暮らしやすくなるようにすることを目的に、杉の枝打ちを行いました。

今回の作業によって、新しく植樹したソメイヨシノが勢いよく茂るようになりました。



◆◆◆◆◆

A～D田んぼに堆肥入れしました&メダカの避難場所を作りました

◆◆◆◆◆

今回、3年目にあたる55番地の地力回復と、有機農業により土壌が腐植質との団粒構造によって土壌が肥沃である程、根から吸収される放射性物質は少なくなるという新潟大学農学部の研究成果を踏まえ、牛久市奥原の平沢牧場から無農薬栽培用完熟発酵牛糞堆肥を購入、堆肥入れを実施しました。





◆◆◆◆◆
新 達人田んぼの復田作業をしました

◆◆◆◆◆
達人散策路を進み、龍ヶ崎へ抜けるところに、新しい達人田んぼがあります。

クボタとの協働事業で草刈りと耕起が行われたものの、切れた根からカサスゲが再び芽吹いている状況でした。クボタのトラクターによる轍には、水がたまりアズマヒキガエルのおたまじゃくしがたくさん泳いでいました。たまり水を流さないように注意して耕起を続けました。また、フジの根が残っていて、とても掘り起こすのが大変でしたが、およそ半分の面積を耕すことが出来ました。



◆◆◆◆◆

達人散策路に林床植物がよみがえりました

◆◆◆◆◆



達人たちが、アズマネザサを刈り、不法投棄されたゴミを片付け再生した森の小径「達人散策路」ですが、林床に光が届くようになりました。

今春の林床には、絶滅の恐れのある貴重な植物が幾つもよみがえりました。

【ウラシマソウ】

花びらから伸びた釣り糸上の部分を、
浦島太郎と釣り竿に見立てたことに由来する。

◆◆◆◆◆

迷子？それとも越冬？

◆◆◆◆◆

4月19日、この時期に上太田の田んぼにいるはずのない「ウスバキトンボ」が観察されました。

南方（宮古島など）から、短い間で世代交代を繰り返して、日本本土にはお盆すぎにやってくるので、精霊蜻蛉とも呼ばれています。ヤゴは、5℃以下で越冬することが出来ないため、北へ北へと生息範囲を広げても死んでしまう不思議な生活史を持っています。

春の嵐で数千キロ飛んできたとも考えられず、今年の寒かった冬に耐えていたとも考えにくいのですが、上太田の田んぼでは、わき水が豊富なため越冬できたのかもしれません。森からのわき水の温度は年間を通して、約15℃です。これも上太田の自然の豊かさの証かもしれません。



それではまた次回、田んぼでお会いしましょう。

認定NPO法人アサザ基金 小堀進